

No.007 (復刻版) *****

腐食センターニュース

*****平成7年6月1日

鹿児島県工業技術センターにおける腐食相談

当センターは、公設の試験研究機関として、主に中小企業の方から様々な依頼試験や技術相談を受けているのは他県の機関と同様である。その中には表面処理や腐食防食に関する試験・相談もかなりある（H6年度40件）。当地の特色としては、活発な活動を続けている桜島の火山灰による腐食の問題や、これに対する防食対策に関する相談、あるいは県内いたる所にある温泉に関連する相談等がある。

火山灰に関連する問題としては、屋外構築物（空調用屋外機や種々の金属製品）の早期発錆の問題や防災営農事業で火山灰の激甚地区に設置されている屋根かけビニールハウスの金属フレーム（パイプ）の早期腐食の問題がある。

温泉関連としては、揚揚管やポンプの腐食、あるいは温泉蒸気による腐食の問題がある。温泉蒸気の例では400mの深さから取り出した93℃の蒸気を利用する予定で仮配管し、めくら蓋をしたSGP（100A）が2週間で吹き飛んだ例（pH3.4, SO_4^{2-} 720ppm, Cl^- 980ppm）や、スケールによる閉塞の問題等がある。更に水や温泉水の汲み上げすぎで水質が非常に悪化してきているのに、それらの最新情報を加味せず、これまでのポンプが10年使えたのでまた同じ規格のものを使ったところ、2年でダメになった、など材料選定時に細心の配慮がなされていない事例等が見られるのも残念である。

一方、IC関連業界では、製品の変色・汚染は勿論、治具や装置材料表面の僅かな錆の発生も敬遠されており、反応性雰囲気での材料選定の問題など、相談は多方面にわたっているのが現状である。

今後、持ち込まれる相談も複雑多岐にわたる一方であると考えられることから、腐食センターへご相談する事例も増えることと思われ、連携が密になるよう願う次第である。（S.I）